

令和6年度「会員研修会in恵庭公園」～エンレイソウ属現地観察～ の記録

北海道ボランティア・レンジャー協議会

事業名	～大原先生を迎えて～ エンレイソウ属 現地観察研修会 in 恵庭公園
開催日時	2024（令和6）年5月19日（日）10：00－12：00
天候	快晴（風爽やか） 最高気温22.3℃ 最低気温9.7℃
参加状況	総数 21人 講師：大原 雅先生、オブザーバー：恵庭市在住／久瀧さま ボラレン会員 19人 ※前週の下見会にボラレン会員7人＋現地に精通する久瀧さまの総数8人が参加 ☆終了後、任意の昼食懇談には、12人（講師及び会員有志）が参加
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・フィールドに出る前に、大原先生から「どうして雑種が出来るのか？」について、シラオイエンレイソウを中心に分かり易く講義をしていただいた。昨年度の総会時会員研修での講演内容と重ね合わせ、“現物”を前に解説が加わり、参加会員の理解は一層深まった。永年の研究の成果をレジュメ及び解説で惜しみなく授けていただいたことに、感謝の念でいっぱい。 ・少なくとも、“シラオイエンレイソウ”に関しては、確実に理解が深まった。 ・ミヤマエンレイソウの特徴や、エンレイソウ属の”葉の付け根の幅”の違い、雑種は子孫を残せないなどのほか、オオバナノエンレイソウの実生に関し、種子は2回低温期（2冬）をくぐらなければ発芽しないことなど、ここでしか聞けない情報に満ちていた。また、移植した株は、エゾシカの食害が激しいことも。 ・詳細は、会報誌「エゾマツ」2024夏季号に研修部発で”研修レポート”掲載予定。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・終了後、近郊のファームレストランで有志による昼食懇談会を開催した。ここでも、「オオバナノエンレイソウ」の国内南限と、それにまつわる最近のエピソードなど、興味深い話題は尽きなかった。※開花状況は、1週間ほど前がピーク。



写真：上左から／シラオイエンレイソウ、車座になったの事前レクチャー。中／エンレイソウの群落と小さな実生たち、現物を前に、花びらが落ちたミヤマエンレイソウ。下／「葉の幅」のこと、エゾシカ食害、昼食懇談会。（記録：事務局）